

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスひかり富田教室			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～	2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～	2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重症心身障がいの児童や医療的ケアが必要な児童が、ケアを受けながら安心して過ごせる環境。	ご家庭や関係機関と情報共有をし、体調の把握や医療的ケアを提供することで、安心して活動に参加できる。	研修への参加や勉強会を実施し、職員の知識の向上を図る。また、各関係機関と連携し児童の受け入れ体制を整える。

2	一人ひとりのニーズに寄り添った細やかな支援。	疾患や身体状況、アレルギー等を把握し、一人ひとりの支援について個別化を図っている。 一人ひとりの発達段階や年齢に応じた支援を行い、その支援方法は職員間で共有している。	児童発達支援センターの専門職講師に研修の依頼をする等、支援に必要な技術や知識の獲得に努める。 外部・内部での研修の機会を設け、職員間の技術の統一化を図る。
3	様々な活動プログラムの体験	「どうしたらできるか」を考え、様々な活動に挑戦している。 野外活動や公共の場への外出なども多く計画し、地域の方々との交流を図っている。	児童の発達段階に合わせた自立課題の提供や、公共の場でのマナーやルールを意識した外食訓練等を企画する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所設備で狭いと感じる箇所がある。	廊下や発達支援室の入口が狭く、車椅子・バギーが通るのに窮屈で外傷をつくらないように細心の注意が必要である。	廊下や入口を広げる事は困難なため、入室時には職員体制を複数名とする等の対策をし、児童が怪我をしないよう細心の注意を払う。
2	家族支援の機会や保護者同士の交流の場が少ない。	保護者を対象とした支援プログラムを専門的に構築できていない。 ペアレントトレーニングや父母の会の実施を検討しているが、働いている保護者が多く交流の場の設定が困難である。	保護者同士やきょうだい児の交流の場を検討したり、職員を含めての交流会を実施したりして交流の機会を設ける。

3	<ul style="list-style-type: none">・移行支援の内容の充実・地域連携の強化	<ul style="list-style-type: none">・学校を卒業し、障害福祉サービス事業所への移行例がまだない。・地域資源の活用をしているが、地域住民の方を招待し交流をする機会は設けられてない。	<ul style="list-style-type: none">・今後の移行を見据えて各関係機関との連携を図り、障害福祉サービス事業所見学等の機会を設ける。・事業所を認知してもらい機会として、児童の体調や感染対策を考慮した上で行政や地域のイベント参加を検討する。
---	--	--	--